

高等学校における防災教育に関する研究

一兵庫県立舞子高等学校環境防災科の授業の役割について一

塩飽 孝一

キーワード：防災教育、意識、高等学校、アンケート調査

1. はじめに

災害への対策はあまり行われていないのが現状である。特に地震は周期が長く対策がとられにくいと言う傾向がある。阪神・淡路大震災を経験した兵庫県立舞子高等学校は、2002年度から、世界でも珍しい、高校生に防災を教育する環境防災科を設立した。教育は人々の災害に対する意識向上に寄与する一因であるとの考えにより、環境防災科で実施されている授業や取り組みを調べる。本論文は、大きく分けると舞子高校の授業の紹介とアンケート調査で他校の生徒との地震災害に対する意識の比較という構成になっている。本論文の目的は、1) 環境防災科の防災教育の特徴を把握する、2) アンケート調査により意識の違いを把握することである。

2. 兵庫県立舞子高等学校環境防災科の防災教育

(1) 教育分析方法

教育の特徴を把握するために、1) 防災面（被害抑止、被害軽減、応急対応、復旧・復興、外力の理解）、2) 項目面（扱っている学習項目、内容）、3) 活動面（授業時間の生徒の活動）という三つの側面から分析する。

(2) 授業の特徴

防災面では、被害抑止、被害軽減に重視している。応急対応、復旧・復興、外力に理解も教えているが、これを教えることにより、被害抑止、被害軽減の方法を学ぶという傾向がある。項目面では、阪神・淡路大震災に関する内容のものが多く、他には、地震、水害、気象災害などが扱われている。活動面では、主に二つの形式がある。一つは教師や外部講師が行う講義形式の授業である。これは、話を聞き、レポートを書くというものであり、活動は<聞く一理解する一考えをまとめる>となる。二つ目は、作業中心の授業である。教師からテーマを与えられ、それにそって、個人やグループで作業を行うものである。この授業の活動は、<聞く一理解する一課題を設定

する一調べる一まとめる一発表・評価する>というものである。評価を行うことは、次の課題を生徒自信が見つけることができる。これにより、<課題を設定する一調べる一まとめる一発表・評価する一課題を設定する>という活動のサイクルが構築される。

3. その他の高校の防災教育

静岡県3校、愛知県2校、大阪府2校、兵庫県3校（舞子高校普通科含む）、和歌山県2校を調査した。各校の防災教育は、避難訓練や防災訓練が中心であり、防災面では応急対応が重視されている。項目面では、特に該当するものはなかった。活動面では、指示や訓練後の講話を聞くだけのもが多く、<聞く一理解する>という活動になる。

4. 意識調査結果

認識から行動までの5段階の意識モデルを構築し、調査を実施した。環境防災科は、各段階において、他校の生徒とは異なる傾向を示しており、意識が高い。他校の中には、ある段階で意識が高い高校もあるが、意志と行動が一致している傾向がみられる。

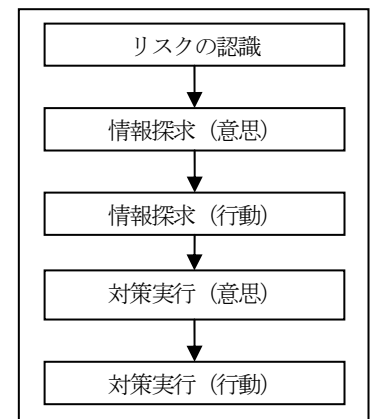


図-1 分析モデル

5. 結論

教育の分析と意識調査結果から、いくつかの環境防災科の教育の役割が考えられる。環境防災科の教育の役割は、1) 意識向上に有効である、2) 持続的な防災を可能にする、3) 生徒の興味を広げ、家庭に普及する。